

沼田町の河童

—— 弁天宮における河童のうわさの発生、伝播、消滅の過程 ——

松井 佳祐

一 はじめに

北海道のほぼ中央、空知支庁管内北西部に沼田町という小さな町がある（二〇一四年九月末現在の人口は三三五八人）。

沼田町で生まれ育った私は、幼少期に友人から「河童池には河童が出る。昔三人の女の子が池の周りで遊んでいたが、そのうちの一人が溺れてしまう。他の二人が助けようとする。池の中を見ると河童が足を引いている。助けようとした女の子二人も河童に突き落とされ溺れ死んでしまう。」¹ といううわさを聞いた。私は、幼少期からこのうわさに興味を持ち、事あるごとに頭の中で反芻していた。しかし友人たちの多くは、年齢をかさねるとともに、このうわさへの興味を失っていったようで、語ることもなくなり、断片的に物語を覚えていくにとどまっている。

河童池とは、町内にある大徳寺から、道路を一本挟んだ弁天宮内にある池のことで、公園が隣接している。また保育園が近

いこともあり、子どもたちの遊び場となっている。

この町民になじみの深い場所に存在する河童のうわさが、どれほど認知されているのか、他人にはどのような形で伝わっているのか疑問に思ったことが調査の発端となっている。調査前の印象では、河童のうわさを知る世代、地域は多くないようだった。このうわさの詳細を調べることにより、うわさの発生、伝播、消滅の一例を明らかにすることができると考えた。

二 調査前の仮説

河童のうわさは、弁天宮内池（通称河童池）で昭和三年（一九二八）に起きた事故に端を発しており、事故を知る世代が、その注意喚起のために河童のイメージを用いたことが考えられる。これは、彼らの孫世代まで行われたようである。しかし、平成七年（一九九五）年から平成九年（一九九七）の弁天宮の

工事により、池が危険ではなくなったため、現在の二十歳前後を境に、注意喚起はされることがなくなり、河童のうわさも語られなくなっていた。この事実により、弁天宮の河童のうわさは消滅に向かってしていると推測する。

三 調査

(一) データの概要

次のことを明らかにするために、資料・インタビューによる事実の確認、意識調査を行い、その回答をデータとして用いた。

- ・いつ池で事故が起きたか。
- ・沼田町の弁天宮の由来、弁天公園の工事はいつ行われたか。
- ・沼田保育園はいつ開園したか。
- ・河童のうわさなどの程度認知されているか。

(二) データの収集方法

- ・町史等による文献・資料による調査。
 - ・沼田町に在住、在住経験者を対象に Email・電話・対面でのインタビュー調査。
- 聞き取り人数は計九十二人で、十歳未満二人（集計時に十代にまとめて集計）十代二十人、二十代二十九人、三十代四人、四十代十五人、五十代十人、六十代四人、七十代三人、八十代四人、九十代一人（集計時は八十代にまとめて集計）である。

調査地域は、町内の旭町・南町・西町・北町・本通・緑町・真布・更進・高穂・東予・共成・沼田一〜六・沼田北竜である。

(三) インタビュー項目

- ・「年齢」
- ・「住所」
- ・「出身保育園」
- ・「河童池（河童公園）という名前を知っているか」
- ・「河童の話聞いたことがあるか」
- ・「誰から河童の話聞いたか」
- ・「池で死亡事故があったことを知っているか」
- ・「その他」

(四) 表の説明

最後に付表したものについての説明。

- ・「番号」調査順に通し番号を付しており、1〜92まである。文中の「」内に英数字で記してあるものは、この通し番号を指している。
- ・「年齢」二〇一二年十二月時点の年齢を掲載している。調査対象者が明言を避けた場合には○代と表記している。
- ・「住所」調査対象者の住所、他の地域への転出者については、沼田町に在住時の住所を記載し、転入者については現住所を記載している。転入者については、表の「住所」の欄、もしくは「その他」の欄に注がある。

・「保育園」調査対象者がどこの保育園を卒園したか。町内の沼田保育園・高臺寺・共成保育園・ひばりヶ丘保育園・行っていない・沼田町以外の保育園卒園がある。短期間でも沼田保育園に通園した経験のある人については、集計時、沼田保育園卒園者と同様に扱っている。

・「河童池（河童公園）」という名前を知っているか
・「河童の話聞いたことがある」インタビュー中に「河童」というキーワードが出てきた場合、それを河童の話として分類した。

・「事故があったことを知っている」弁天宮内池で死亡事故があったことを知っているか。中には、事故は知らないが、その慰霊のための地蔵を知っている場合や死亡事故と、地蔵の関連性を知っている人もおり、表中に記載した。

・「誰から河童の話聞いたか」
・「その他」気付いたこと、血縁、転居の有無、池のイメージ、その他興味深いと感じた事について記載している。

(五) 無効データ
表の各項目別分類の中で、「住所不明」「出身保育園不明」「河童池について聞くことができなかった」「河童の話について聞くことができなかった」人については無効データとし、集計時の計算に入れていない。

四 結果

(一) 弁天宮内池での事故

弁天宮内池で事故があり、男児三人が亡くなっている事実がある。大徳寺の過去帳には「昭和三年七月二十九日、土肥秀成（享年八）と友人の六条兄弟の三人が寺の横の池にて溺死す。」とある。また、大徳寺境内の地蔵について、沼田町史では以下のように記載されている。「沼田町市街大徳寺境内には、弁天宮の池に落ちて溺死した幼児三人の霊を祀る地蔵堂が建っている。」しかし、今年大徳寺は納骨堂を改築した。【図1】その際地蔵堂は、納骨堂建設予定地の中にあつたため、二〇一三年十一月に処分された。²⁾

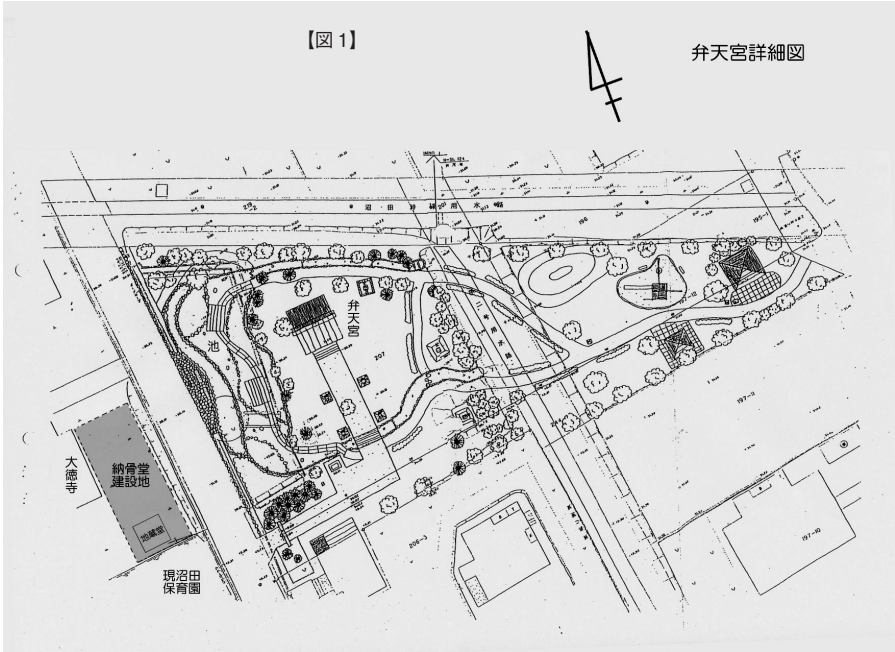
(二) 弁天宮

弁天宮の成り立ちについて、沼田町史には以下のように沿革概要が記載されている。「所在地、沼田町南一条四丁目七番。祭神、京都尺八堀弁天御分霊。昭和二年田島惣太郎氏が、今井農場から百町歩を購入して農場を開いた際、その守護神として京都市尺八堀弁天宮本社から御分霊を受け、翌三年八月十五日現在地に小祠を建立したのが創始である。」³⁾その後、平成七年から九年にかけて、池・弁天宮の改修工事が行われた際に池は浅くされ、弁天宮横の空き地も公園として整備され今にいたる。

平成七年の工事開始以前の池を知っている人に、以前の池の

【図1】

弁天宮詳細図



印象を尋ねたところ、九十二人中二十二人が、池を危険・底なし沼と述べており、弁天宮内池は危険な場所という認識を持っていた。しかし、平成九年の工事終了以降の池しか知らない今の十代に、同じように池の印象を尋ねたところ、危険なものとして認識していない人があらわれることになる。

(三) インタビューによる調査結果

インタビューによる調査結果は、表にまとめ付表しているの
でそちらを参照してもらいたい。

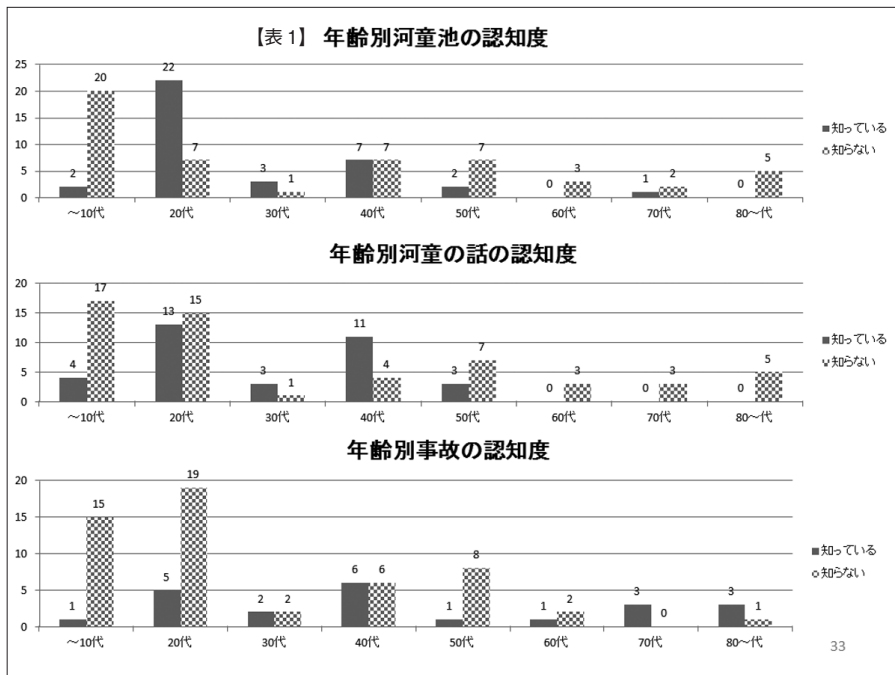
五 考察

収集したデータをもとに、年齢別・住所別・保育園別に分類し、それぞれが弁天公園内池を「河童池」という通称を知っているか。弁天宮内池で河童のはなしを聞いたことがあるか。弁天宮内池で死亡事故が起きたことを知っているかを数値化し、その傾向を考察する。

(一) 年齢別

年齢別の分類では、十代（十歳未満含む）・二十代・三十代・四十代・五十代・六十代・七十代・八十代（九十歳以上含む）に分け表にした。【表1】

その結果、事故を知っているかに注目すると、七十代以上の人は弁天宮内池で事故があったことを知っている人が多い。知らないと答えた通し番号「9」の人は、市街外に住んでおり、



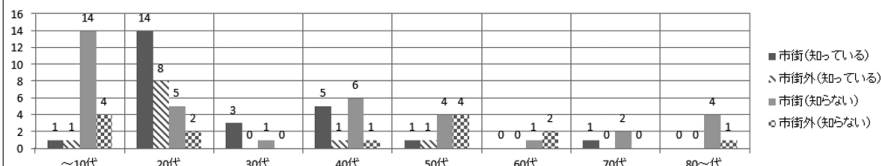
市街で起きた事故を知る機会が少なかったためと考える。逆に通し番号「67」の九十五歳の人は、「六条さん兄弟と土肥さんが亡くなった。溺れた時子どもを裸になってあつたためたけどだめだった話を聞いた。それを慰める地蔵が三体お寺さん」と（大徳寺境内）にある。」と言い事故の詳細を覚えていた。これらのことから、この世代にとって弁天宮内池での事故が注意すべきことだったことがうかがえる。

四十代・五十代に関してみると、四十代で河童池、河童の話について知る人が急増している。このことから、河童に関連することは四十代と五十代に境界があり、この頃から頻繁に話されるようになっていったのではないかと考える。二十代に関しては後述の「保育園別で詳しく考察する。十代以下に関してはみると、現在の十代が弁天宮内池で遊ぶようになる頃には弁天宮の工事が終わっている。そのため、工事後の池しか知らず、池を危険なものとして認識することがなかった。結果として、昭和三年（一九二八年）という昔に起こった事故も知らず、河童池という呼び方と河童の話を知らない集団が形成されたのではないだろうか。このことから、年齢別に見た「河童池」と「河童の話」の認知度は、池の変容と事故が起きた過去への認知度に大きく依存することが考えられる。

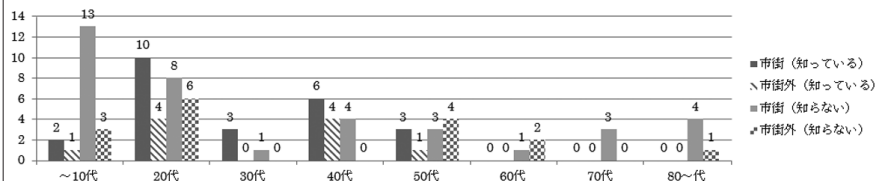
（二）住所別

データを整理するにあたり、「市街」を旭町・南町・西町・北町・本通・緑町。「市街外」を真布・更新・高穂・東予・共成・

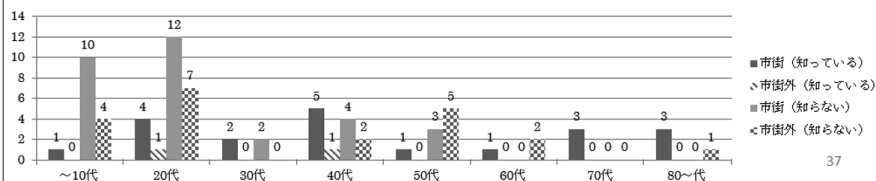
【表2】 住所別河童池の認知度



住所別河童の話の認知度



住所別事故の認知度



37

沼田一〇六・沼田北竜として分類した。【表2】

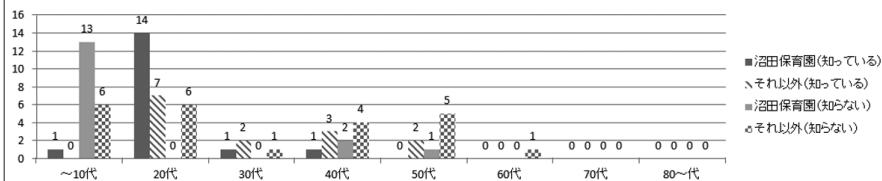
その結果、河童池・河童の話・事故に関して、市街に住む人と、市街外に住む人で認知度に大きな差があるとは言いがたい。また、二十代に絞ると、詳しく見ると、河童池を知っていると答えた二十二人のうち市街に住む人が十四人（十四／二十二）で市街外に住む人が八人（八／二十二）となった。また、知らないと答えた七人のうち市街に住む人は五人（五／七）人。市街外に住む人が二人（二／七）となった。このことから、認知度に関して住所は決定的な要因になっていないと考える。

（三） 保育園別

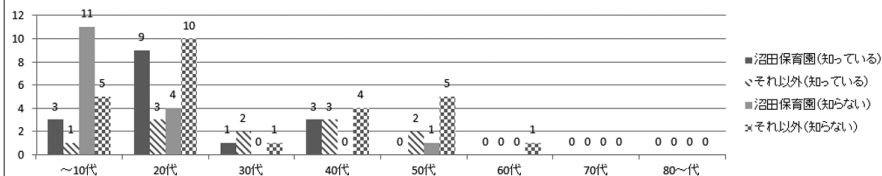
調査対象者が、弁天内池に隣接している沼田保育園と、それ以外の保育園に通園していたかに分け集計した。【表3】また、六十代以上は、沼田保育園の開園が昭和二十八年（一九五八年）であり、彼らの数値は必然的に0人となる。考察するにあたり、データが多い二十代（計二十九人）に注目する。沼田町内の沼田保育園・共成保育園・ひばりヶ丘保育園に通園していた人は計二十人である。沼田保育園の卒園生はそのうち十五人であり、全員が弁天内池の通称である「河童池」という呼び方を知っていた。町内の沼田保育園以外の保育園である、共成保育園・ひばりヶ丘保育園の卒園生も五人中四人が「河童池」という通称を知っているという結果になった。

保育園に通ったと答えていないか、小学生になってから沼田町に転校してきた人は九人であり、そのうち「河童池」という

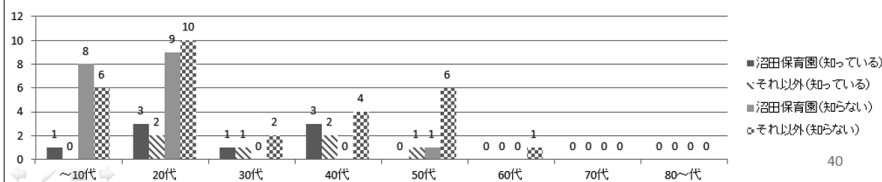
【表3】 保育園別河童池の認知度



保育園別河童の話の認知度



保育園別事故の認知度



40

通称を知っていると答えた人は九人中三人となった。

また、市街外に住んでいて「河童池」と言う呼び方を知っているのは、七人全員が沼田保育園の卒園生である。以上のことから、河童のうわさの発端は沼田町内の保育園、特に沼田保育園にあると考える。沼田保育園以外の保育園に通いながらも、「河童池」という通称を知っていると答えた人は、幼稚園時代など早いうち沼田保育園の卒園生と交流を持ったためと推測する。⁽⁴⁾

(四) 誰から河童の話聞いたか

河童の話を知っていると答えた人に、誰から話を聞いたかを尋ねたところ、「覚えていない。気が付いたら言っていた」十五人、「友達」七人「保育園の先生」五人、「親」一人となり、当初予測していた、親が注意喚起として河童のはなしを子どもにしたことがこのうわさの発端となっているという可能性は低いと考える。また、「覚えていない。気が付いたら言っていた」という人が大多数を占める理由としては、誰から話を聞いたか忘れてしまうほど昔に聞き、本人たちも意識しないうちに他人と共有した結果ではないだろうか。

「誰から話を聞いたか」に関して、興味深い世代がある。それは四十代で、大人になってから河童のうわさを聞いた人と、子どもころに河童のうわさを聞いた人の二つが混在している世代だからである。このことから、彼らが子どもの時から、現在までの三十～四十年間は頻繁に河童のうわさがされたと考えて良いだろう。また、フロアーからの指摘があったように、この

世代というのは、妖怪が身近になってきて、川の注意として、「河童に注意」という看板が立ち始めた頃である。加えて、「86」の人が「底なし沼って言うって、そこで遊ぶと夜、河童が家に来て枕の色を聞かれ（赤か白）間違った方を答えると、池に連れて行かれる。」というように、他の怪談話との融合も見られる。そういった妖怪像が弁天堂の河童のうわさの形成に関係した事が考えられる。

(五) デマの公式と河童池

河童池と言う通称の年齢別の認知度に関してG.W.オルポルト・L.ポストマン「デマの公式」⁷⁾に当てはめて、なぜ年齢による差が表れたかを考察する。「デマの公式」 $R \propto \frac{1}{x} \times \frac{1}{y}$ のR（デマの流布量）に河童池という通称を知っているか。1（当事者に対する問題の重要さ）に池で事故が起きる危険性。2（その論題についての証拠のあいまいさ）に事故が起きた過去のあいまいさ。それぞれを特徴が顕著と思われる八十代以上、二十代、十代以下に代入した。

八十代以上…河童池を知っている（0）→池で事故が起きる危険性（高）×池で事故が起きたという過去のあいまいさ（0）

二十代…河童池を知っている（多）→事故が起きる危険性（高）×事故が起きたという過去のあいまいさ（高）

十代以下…河童池を知っている（少）→事故が起きる危険性（低）×事故が起きたという過去のあいまいさ（高）

これを文章にすると、八十代以上で河童池という通称を知ら

ないのは、事故が起きる可能性は非常に高い状況であるが、事故が起きたという過去はあいまいではなく、確定した事実だった。そのため、事故が起きたのは池に住む河童のしわざだといううわさが拡散されなかった。二十代では多くの人が河童池という通称を知っている。この世代は、改修工事前の池の姿を知っており、池は危険なものだという認識があった。加えて、事故が起きた事実は過去のあいまいな事象となり、知らない人も多く出てくる。そのため、河童が出る池だといううわさが拡散しやすかった。十代以下では河童池という通称を知っている人が少ない。それは、平成九年以降の危険ではなくなり、事故が起きる危険性が低くなった池の姿しか知らず、事故が起きたという事実はすでに過去のものとなっていたためである。そのため、事故を知らず、河童池という通称で呼ぶ集団も形成されなくなった。

(六) 犠牲者の性別

私自身、池で死亡したのは女の子だと伝え聞いていた。性別について語った他の人⁸⁾も、ほぼ女の子と言っている。しかし、過去帳から読み取れる事実によると、死亡したのは三人とも男の子である。編集委員会からも指摘がある通り、伝承の過程で何らかの作用が働いたとは思いますが、いつ頃女の子というようになつたのかはわからない。

(七) 池のイメージ

現在の二十代以上は、改修工事前の池の姿を記憶している人

もあり、そのイメージをまとめ、考察する。

[15]「おどろおどろしい感じがしており、子どもが近寄っちゃいけない雰囲気だった。」

[16]「池は危ない感じだったので、子どもを公園で遊ばせようとは考えなかった。」

[22]「夜中に池の付近に白い何かがいた。変な声でしたらしい。」

[37]「沼には行かない方がいいイメージがあった。」

[38]「池には怖いイメージがあった。」

[45]「親に底なし沼だから絶対に行くなと言われていた。」

[54]「沼は気持ち悪いまとわりつくような風が吹いていた。」

[58]「底なし沼って言った。」

[67]「底なし沼って言った。あそこ弁天さんには、白いだっただか覚えてないが、大蛇が大通りになる。」

[68]「弁天さんのところはおつかない。底なし沼って言った。」

[79]「自分の子どもには池は危ないといったかもしれないが、河童が出るとは言わなかった。」

[83]「沼には小さい靴がずっとあって、それが亡くなった女の子のものという噂があった。沼には屋根があって、その下が底なしになってる。」

私が記憶している限り、以前の池は、池というよりも沼の様相を呈していた。「底なし沼」という人がいるように、底なしに

なっている所があるというはなしは、私自身も聞いたことがある。また、以前の池には、木や草が生い茂っており、民家や道路がすぐ側にあるにもかかわらず、そこだけが外界と切り離されていた。これらのことから、危険・不気味な場所という印象を抱いたのではないだろうか。この印象は、河童のうわさを知らない人でも同じように持っている人がおり、弁天宮内池の負の印象が、河童のイメージを想起させたかはわからないが、池の印象が先行して浸透していたことがうかがえる。また、神社という場所がそうさせるのか、池に畏敬の念を抱く人もいた。⁹⁾

六 結論

弁天宮の河童のうわさの原点は昭和三年の弁天宮内池の水難事故にあるだろう。また、四十代と五十代にかけて、河童池という通称の認知度に転換が見られ、この頃から頻繁に話されるようになっていった。

では、このうわさを広めたのは誰なのだろうか。ここで、沼田保育園の保育士が子どもに対し河童のうわさによる注意喚起をした例を紹介したいと思う。

[59]「子どもたちに、危ないから近寄るなという意味で、河童が出るから近寄るなといったような気がする。底なし沼だから近寄るなみたいなことも言ったような気がする。」

「62」「子どもたちに、危ないから沼に近寄らないでねって言った。沼に近付くと河童に引きずり込まれるよ的なことを言ったかも。」

「63」「沼が危ないから子どもたちに河童が出るって言ってた。」このことから、うわさは沼田保育園内で広まったと言っている。それが口々に伝えられ、弁天宮で遊ぶ市街の子どもたちの間に広まった。それが沼田保育園の保育士によっても、園児への注意喚起として利用された可能性がある。しかし、平成七年から九年にかけての弁天宮の工事にもない危険ではなくなった池で、河童のうわさはされなくなった。さらに、事故を物語る地蔵も処分され、このうわさは消滅していくと結論付けた。

七 おわりに

本稿では、うわさが発生した背景となる事実や、うわさを知る世代やグループに偏りがあることを明らかにできた。今後は、うわさの発生に深く関わっていることがわかった四十代と五十代を詳しく調査する必要がある。さらに、興味深い課題もある。河童のうわさの発所。年齢によるうわさの発展、日本口承文芸学会第三十八回大会での発表の際に質問をいただいた、どの段階で亡くなった幼児三人の性別が男性から女性へ変化したのか。沼田町の他の地域に河童のうわさはあるのか、特にひばりヶ丘

公園の河童のうわさは、弁天宮の河童のうわさと同時に成立したもののなか、独立しているものかなどである。「危険な場所」がなくなっていくなかで、今後沼田町の河童のうわさがどのように変容し生きる場を見出していくか、行く末を見守っていきたい。

参考文献（順不同）

図1 北海道空知支庁『平成七年度 新規採択希望 ふるさと・水と土保全モデル事業 計画概要表仲町地区 付属資料』一九九五

北海道沼田町公式ホームページ [http://www.town.numata.hokkaido.jp] (二〇一四年九月一日閲覧)

西森巽『新編 沼田町史』一九八二年 沼田町役場

大徳寺『大徳寺所蔵過去帳』

G. W. オルポルト・L. ポストマン『デマの心理学』二〇〇八 株式会社岩波書店

注

- (1) 水中で足を引いている河童と、陸上で女の子を突き落とし河童がいることから、弁天宮内池には、少なくとも二匹の河童が住んでいたことを示唆する伝承であると言える。
- (2) 大徳寺住職によると「地蔵堂があることで池が危ないと知らせる役割もあったのだが、納骨堂の建て替えと池が浅く

なり危険ではなくなったということで、役目を十分にはたしてくれたということ、みなでお参りをして処分させてもらった。」と言っており、単に邪魔だという理由で処分したわけではないようである。

- (3) 弁天宮の創始が昭和三年八月十五日であり、池での事故が昭和三年七月二十九日である。このことから池は以前から存在しており、弁天宮創始のために増設されたものではないと考える。

- (4) 沼田町内においては、まず保育園を卒園後、幼稚園に入園しその後小学校に入学するのが一般的である。

- (5) 大人になってから河童のうわさをきいた人は以下の四人。

「16」「二人いる娘のどちらか。」

「58」「保育園の先生だったと思う。」

「59」「先輩の保育園の先生が言いはじめたのではないか。」

「62」「勤めてから聞いた。先輩の保育園の先生に聞いたのかな。」

※「58」「59」「62」は保育園の元保育士でもある。

- (6) 子どもの頃に話を聞いた人は以下の二人。

「79」「親か先生だったと思う。」

「83」「気が付いたらクラスで言っていた。小学校に入る頃には言っていた。」

- (7) デマの公式とは「 $R \sim a$ デマのこの公式の意味を言葉で言っと、(R)の流布量は、当事者に対する問題の重要さ

(c)とその論題についての証拠のあいまいさ (e)との積に比例するということである。」

- (8) 今回の調査において、死亡した幼児の性別を男性と答えたのは、事件を直接知る「67」のみである。それ以外に、性別について言及した、「41」「79」「83」「86」は全員が女性と答えている。

- (9) 弁天宮に畏敬の念を抱いていた印象をうけた人は以下の3人である。

「64」「弁天さんのところには白いヘビが出る。」

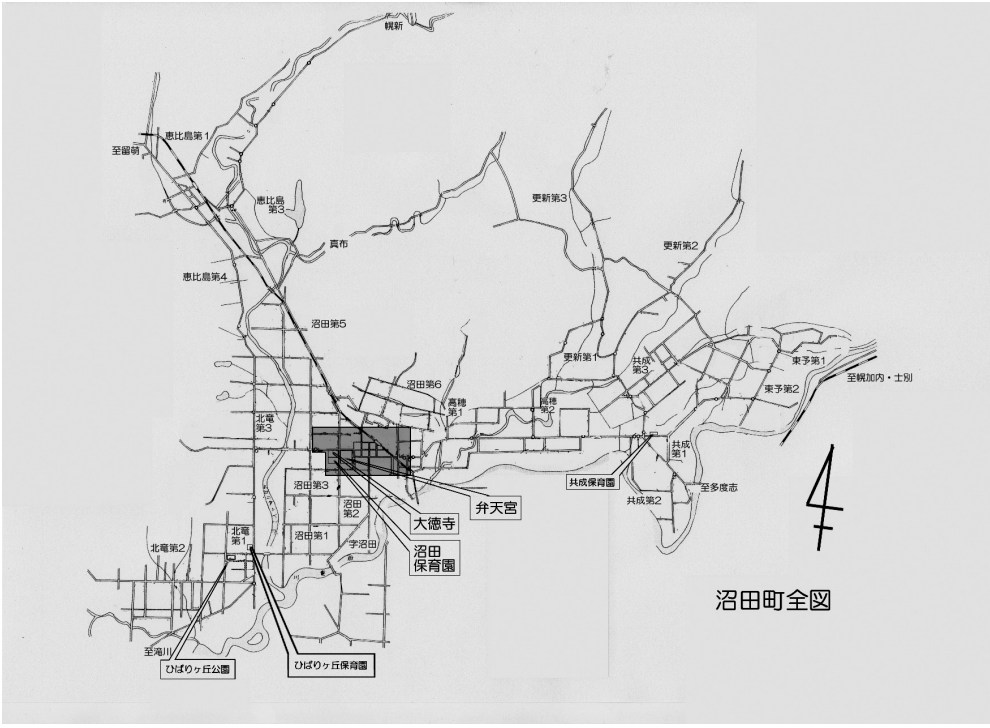
「67」「底なし沼って言った。あそこの弁天さんには、白いだったか覚えてないが、大蛇が大通りになる。」

「75」「弁天の池を区画整理で、埋め立てるか、移転しようとした時、近隣住民の根強い反対にあつて断念した。」

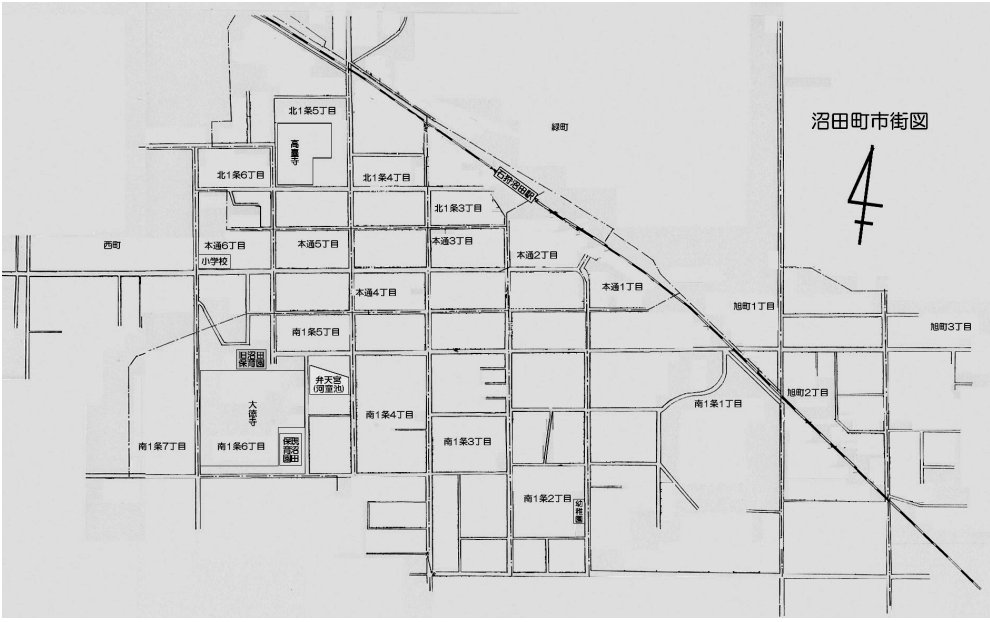
「75」の人は元沼田町町長である。彼の証言が示すように、近隣住民の中には、負の印象以外のものを持っている人がいることがわかる。

- (10) この点については、大会後、さらに調査を行い、北海道民族学会二〇一四年度第一回研究会(二〇一四年七月十三日、北海学園大学)にて予備的報告を行った。

(まつい・けいすけ／札幌学院大学科目等履修生)



沼田町全図



沼田町市街図

調査結果一覧表 (2012.12.10時点)

番号	年齢	住所	保育園	河童池(公園)という名前を知っている	河童の話聞いたことがある	事故があったことを知っている	誰から河童の話聞いたか	その他
1	80代	南1-6		知らない	知らない	知っている		
2	80代	南1-6		知らない	知らない	知っている		
3	68	南1-6		知らない	知らない	知っている		大徳寺住職。小さい時池でおぼれたことがある。中学生くらのい時、境内で火の玉をみた
4	18	東予	共成	知らない	聞いたことがある	知らない		
5	26	東予	共成	知っている	知らない	知らない		
6	27	東予	共成	知らない	知らない	知らない		
7	56	東予	行っっていない	知っている	知らない	知らない		
8	52	東予	沼田保育園	知らない	知らない	知らない		生まれは北竜、小1くらいには緑町、その後南1へ。大徳寺へは1年通っただけ
9	80	東予		知らない	知らない	知らない		祖母
10	54	南1-1	行っっていない	知っている	知らない	知っている		父
11	24	本通6	共成	知っている	聞いたことがある	知らない		
12	24	北1-5	沼田保育園	知っている	良く覚えていない	知らない		
13	24	旭町	ひばりヶ丘	知っている	覚えていない	知らない		
14	27	旭町		知っている	河童が出る、お化けも出る	知らない		
15	50	旭町(1982まで) → 本通3	高臺寺	知らない	河童が出るのと聞いたことがある、誰かはわからないが河童を見たことがあると言う人がいた。身長は小さい、頭に血がある	知らない※昔は用水路で子どもがよくくぐっていた		当時(56歳)の友人から聞いたわけではなく、当時の中高生くらのい人から聞いた気がする
16	47	本通3	町外	知っている(河童公園)	知らない	知らない		2人いる娘のどちらかか、お客さん(公園改修の時、弁天公園の名前を出したところね)と言っていたような気がする
17	36	南1-2	高臺寺	知っている(河童公園)	河童が出ると噂だった。胡瓜をあけたら胡瓜がなくなるという話があった	知らない		生まれは川路、育ちは札幌。娘は二人とも大徳寺。池は危ない感じだったので、子どもを公園で遊ばせようとは考えなかった
18	24	南1-2	町外	知らない	知らない	知らない		小学3年生のとき沼田に転校してきた
19	3	南1-2	沼田保育園	知らない	知らない	知らない		[18]の息子

20	24	南1・4	沼田保育園	知っている	知っている	落ちたら足を河童にひかれる	知らない	知らない	よく覚えていないがひよっとしたら友人Yに聞いたような	親にあまり行かないように言われていた
21	26	南1・2→南1・3	行っていない	知らない	知らない	知らない	人が死んだと聞いた	覚えていない(父親に聞いたわけではない)	保育園には行っていない、幼稚園から。普段碑を話すようなカウルフにはいなかった	
22	24	南1・2→南1・3	行っていない	知っている	聞いたことがある	聞いたことがある	知っている(何人死んだかは知らない)	よく覚えていないが男の子だった気がする。[41]、[46]、[25]、「松井」辺りだったような	保育園は行っていないが、幼稚園から沼田幼稚園へ通い、自分たちと合流。夜中に池の付近に白い何かがあった。変な声があったらしい。胡瓜がどうのどうの	
23	21	南1・2→南1・4	行っていない	知らない	知らない	知らない	知らない	保育園には行っていない、幼稚園から		
24	24	沼田5	沼田保育園	なんとなく覚えてる	知らない	知らない	知らない	覚えていない	河童は、ひばりヶ丘公園の池にできる話の方が印象深い。ひばりヶ丘の池で、呪文?何かを言う?と河童が出てくる。ずっと見てたけど何もなかった。河童が出てきて足を引っ張る	
25	24	高穂1	沼田保育園	知っている	知っている	河童がいると聞いたことがある	子どもが死んだと聞いたことがある	保育園の先生に河童がいるんだと聞いた気がする	自分から以外の年齢が言っていたのが広まったような気がする	
26	24	本通1	沼田保育園	知っている	知っている	知らない	知らない	覚えていない	河童を探しに行こうとって、いなかったという経験あり	
27	24	沼田北竜1	沼田保育園	知っている(自分で弁天公園と書いていた)	知らない	知らない	知らない	覚えていない	ひばりヶ丘公園の河童の話は聞いたことがある	
28	20	沼田北竜1		知らない	知らない	知らない	知らない	覚えていない	ひばりヶ丘に河童が出る	
29	24	沼田1	沼田保育園	知っている	知っている	聞いたような気がする	知らない	覚えていない		
30	24	西町6	町外	知らない	知らない	知らない	知らない	覚えていない	小5の時に転校してくる	
31	55	夏: 真布・冬: 本通5	行っていない	知らない	知らない	知らない	知らない	覚えていない	真布小学校に通う	
32	24	夏: 真布・冬: 本通5	沼田保育園	知っている	知らない	知らない	知らない	覚えていない	正式名称の弁天公園という名前を知らなかった	
33	21	夏: 真布・冬: 本通5	沼田保育園	知っている	知らない	知らない	知らない	覚えていない	[31] 次女	
34	18	夏: 真布・冬: 本通5	沼田保育園	知らない	知らない	知らない	知らない	覚えていない	[31] 三女	
35	16	夏: 真布・冬: 本通5	沼田保育園	知らない(一昨年からいに知た)	知らない	知らない	知らない	覚えていない	[31] 四女	
36	24	南1・2	町外	知らない	知らない	河童が出たって話を聞いた	知らない	覚えていない	近所のおばさんやクマズの男子 [22] か松井が言っていたのを集団下校の時間聞いた	

37	24	沼田 6	沼田保育園	知っている	河童が出るんじゃないかって話だった	知らない(地蔵があったのは知っている)	覚えていない	沼にはいかないうちがいいイメーシがあった
38	24	南 1-1	沼田保育園	知っている	河童がいるって話を聞いたことがある。胡瓜系の話を聞いたような気がする。池に入ったら河童に足を引かれるから入っちゃダメ	知らない	友人Yだったようなきがする	池には怖いイメージがあった。兄(28歳)は何も知らないというか忘れていた風だった
39	24	旭町(小4まで) → 緑町	沼田保育園	知っている(電話があった)	河童が住んでいるっていう話だった	子どもが溺れたのは聞いたことがある	覚えていない	
40	24	北 1-3	ひばりヶ丘	知っている	河童を見たとき聞いたことがある	知らない	覚えていない(幼稚園から小学校くらいのに聞いた気がする)	幼稚園から合流
41	24	緑町	沼田保育園	知っている	池の中にある背の高い草が河童の好物	女の子が3人亡くなったのを知っている。だから地蔵がある。地蔵の顔はそのなくなった女の子そっくりに出来ている。	覚えていない	[41] 祖母(73歳)昔川が流れてて、そこで子どもが死んだと言っていた
42	50	緑町	町外	知らない	知らない	知らない		元は沼田の人ではない。保育園の先生をしていた(S63~H15)誰かから河童の話を聞いてそれを話したということはない
43	24	字沼田 107	ひばりヶ丘 途中から短期 副沼田保育園	知っている	知らない	知らない		ひばりヶ丘の河童も知らない
44	80代	南 1-4		知らない	知らない	事故があつてそれを認めるために地蔵が3体立ってる		H4~9くらいまでの沼田幼稚園の園長、町内会長の経験あり
45	76	南 1-4		知らない	知らない	私が生まれる前に小さい子があそんで亡くなった		親に底なし沼だから絶対に行くなと言われていた。そのことを自分の娘に言いはしなかった
46	24	沼田 5	沼田保育園	知っている	河童が出るから胡瓜を持っていくんだってかそこで食べるなどか言っていた気がする	知らない	覚えていない	
47	25	本通 2	いっぺいな	知っている	知らない	知らない	覚えていない、気が付いたら言っていた	幼稚園から沼田幼稚園
48	41	南 1-1	町外	知らない	知らない	知らない		札幌出身で中学生の時に沼田に来た。親心として、普通に行くなというより、河童が出るからと行って行かないようにするのは親の心理
49	39	南 1-1	町外	知らない	知らない	知らない		森町出身、沼田に来て17年

50	16	南-1-1	沼田保育園	知らない	河童が出る時聞いたような聞かないような	知らないが、地蔵があつたことば知っている	覚えていない	公園で遊んだことはある
51	13	南-1-1	沼田保育園	知らない	知らない	知らないが、地蔵があつたことば知っている		池で遊んだことはあるが、危ないと言われたことばはない
52	41		いっぺいな	知っている、河童は公園とも言っていた	河童が出ると言う噂はあつた			[48] の従兄弟、沼田幼稚園にいらっていた
53	13	沼田2	沼田保育園	知っている (河童公園)				[51] の友達、母は何も知らなかった
54	30	緑町	沼田保育園	知っている	河童が出るって噂だつた。河童に足を引っ張られる	3人死んだって住職に聞いた、地蔵が3体あるのも知っている	覚えていない、気が付いたら言っていた皆言つてた	河童が出るかでないかという遊びをしたことがある。沼は気持ち悪いまどわりつくような風が吹いていた
55	60	共成→緑町	行っぺいな	知らない	知らない	知らない	ざっと共生育ちで市街のうわさは知りようがなかった	
56	64	更新3		知らない	知らない	知らない		
57	18	緑町	町外	知らない (池があるのは知っている)	知らない	知らない	生まれは深川、小1の時転校してきた	公園をあそび場にしていった。底なし沼で言つてた。前の住職のときにはすでにそう言つていた
58	42	西町→本通5	沼田保育園	弁天さんと言つていた	ここで何人もの人が亡くなっている。河童に足を引っ張られたから死んだ	事故があつたの、地蔵があるのも知っている	親ではない、保育園の先生だつたと思う	
59	40	緑町 (り蔵の時に深川から引つ越してきた) →本通5	高臺寺	小さいころは言つてなかったけど先生になつてから始めた気がする	地蔵は河童に食べられた人のもの	先生になつてから知つた気がする	先輩の保育園の先生が、いいはじめたのではないか	H34～H89まで保育園の先生をしていった。子どもたちに危ないから近寄るなという意味で「河童が出るから近寄るな」といったような気がする。底なし沼だから近寄るなみたいなことも言つたような気がする。保育園の先生は、私が密めたころから毎年変わるようになって、先生方の間でも「河童が出る」とかつて話はしなかつたのでは
60	12	本通5	沼田保育園	知らない	知らない			
61	5	本通5	沼田保育園	知らない	知らない			
62	43	東予		河童沼つて言つていた (先生になつてから?)	河童が出るってきいてた (先生になつてから?)	事故は知らないが、お地蔵さんがある事は知っていた	つとめてから聞いたのか、先輩の先生に聞いたのか	保育園の先生をしていった。子どもたちに、危ないから沼に近寄らないでねつて言つてた。沼に近付くと河童に引きすり込まれるよめことをいつたかも
63	45	多度志→旭町			河童が出るって言つたかもしれない	事故は、お地蔵さんとの関連があるのはきいていた	覚えていない	S62～保育園の先生、沼が危ないから子どもたちに河童が出るつて言つてた
64	58	南-1-6			沼には藻があり、それが足にからみつくということがあつた。それが河童のイメージになつたのではないか			弁天さんのところには白いヘビが出る

